



巻頭  
Photo

高尾山のいきものたち

## エサキモンキツノカメムシ (ツノカメムシ科)

背中にハートマークがあるカメムシ。体長10～14mmで、背面が茶褐色、頭部や身体の周囲、脚が黄緑色や緑色をし、肩の部分の黒い出っ張りも特徴。高尾の林道などを歩いていて、時々葉の上にとまっている姿を見かける。

低地から山地の雑木林などに生息し、ミズキ、ハゼノキ、ウド、カラスザンショウなどの樹木に見られ、これら木の汁を吸う。5月頃から成虫が現われ、6月頃に産卵する。ふ化した幼虫は8月頃に新成虫となり、成虫のまま11月頃から樹皮の下などで越冬する。メスの成虫は、産んだ70～80個の卵やふ化した幼虫に覆いかぶさるようにし、外敵から守る習性がある。背中のハートマークのように、子供に愛情を示す昆虫だ。

(写真・文 森林インストラクター 藤原 裕二)



NO.60

## ウメノキゴケ (ウメノキゴケ科)

高尾山でごく普通に見られる地衣類である。地衣類とは菌類の仲間である。梅の木や桜の木の樹皮上や岩の上などに生育している。

小仏川沿いの湿った梅林の梅の木に大きなウメノキゴケが着いていても、梅の花には関心を寄せて目を向ける人は多いが、樹皮上の地衣類に気がつく人は少ない。

梅の花の時期が終わると、ひっそりとする梅林であるが、地衣類の観察は年中いつでもできるのである。

表面は灰白色から灰緑色の葉状で光沢がない。緑藻を共生藻として生活し、地衣体の中央部分に裂芽をつける。

ウメノキゴケをアンモニア水に漬けて発酵させると赤い色素が出てくる。これを利用し染色ができる。また、ウメノキゴケに含まれるシカノール酸はC呈色反応(キッチンハイターの希釈液で代用)で赤くなる。(富)



ウメノキゴケ



赤く反応した様子



ウメノキゴケ染色

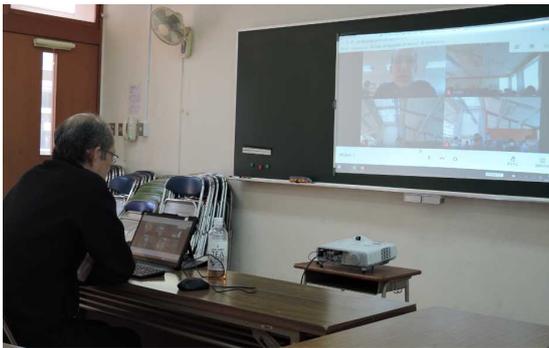


ウメノキゴケ染めストール

## 出前森林教室

4月26日（月）、八王子市立みなみ野小学校での出前森林教室を行いました。新型コロナウイルス感染症対策のため、講義は会議室の講師と教室の児童をリモートで結び実施しました。

緊急事態宣言明けには、この学習を踏まえ学校の校庭で樹木を観察しながら、くわしく特徴を説明する予定です。（皿）



リモートで樹木の説明をする講師

## 講師の派遣

4月20日（火）、森林総合研修所が実施する「令和3年度総合職新採用研修」に講師派遣の依頼があり、当センターから職員2名を派遣しました。

午前中は、枝澤行政専門員が国有林の管理経営について講義を行い、午後は高尾山の植生や国有林野の管理について、現地を歩きながら説明を行いました。（高）

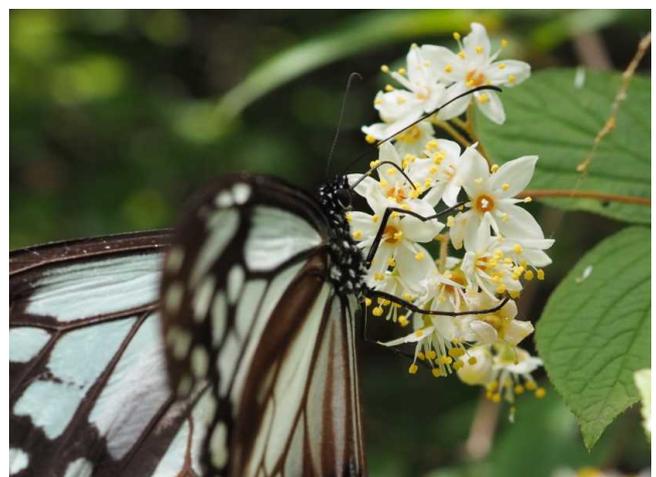


3密を避けつつ林野庁殉職者慰霊碑前で講義

## 高尾山の国有林近況



「ミヤマハイツ」のつぼみ。開花まであと少し。



「アサギマダラ」が飛びはじめています。

### 編集後記

今年は「早めの梅雨到来となりそう」との報道があります。ぬかるんだ斜面は足下が滑りやすいので登山の方は気をつけて下さいね。

### トキワハゼ



### Forest通信 NO.388

発行：林野庁関東森林管理局

高尾森林ふれあい推進センター

ご意見・ご要望・イベントのお申込み・お問い合わせ先  
高尾森林ふれあい推進センター

〒193-0844 東京都八王子市高尾町2438-1

TEL 050-3160-6040 FAX 042-663-7229

<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/takao/index.html>

